

擁壁耐震化に助成を

都議会予算特委 小竹都議求める

日本共産党の小竹ひろ子東京都議は14日の都議会予算特別委員会で、区部の住宅地にある擁壁の耐震化など安全対策を求めました。

小竹氏は、山手台地東端にあり多数の崖地がある文京区内で、古い石積みやコンクリート擁壁に亀裂が生じたり風化し崩れたりしている指摘しました。

都の首都直下地震の被害想定でも、震度6強で高さ5メートル以上の擁壁などが95%の確率で崩壊するとして算定したにもかかわらず、対

策が個人任せにされているため、安全化が進んでいないと指摘。延長数百メートルで土地所有者が複数いたり、道路が細く資機材の搬入が難

しかったりする事例をあげ、「狭小な戸建て住宅が多い地域の擁壁改修は、都の支援が不可欠」と迫りました。

藤井寛行都技監は「崖、擁壁などの崩壊防止対策は原則として所有者・管理者が行うべきだ」と答えました。

小竹氏は、新宿区が①調査点検②コンサルタント無料派遣③改修など工事への助成に取り組んでいると紹介。都が擁壁の安全化に思い切った措置を取るよう求めました。



小竹ひろ子都議